

短 報

富山湾における海棲哺乳類の記録 (2021年)

南部 久男¹⁾, 清水 海渡²⁾, 西尾 正輝^{3), 4)}
田島 木綿子⁵⁾, 山田 格⁵⁾

- 1) 富山市科学博物館登録ボランティア 939-8084 富山市西中野町一丁目8-31
- 2) 富山市科学博物館 939-8084 富山市西中野町一丁目8-31
- 3) 氷見市教育委員会 935-8686 富山県氷見市鞍川1060
- 4) ひみラボ水族館 935-0113 富山県氷見市惣領1927
- 5) 国立科学博物館動物研究部 305-0005 茨城県つくば市天久保4-1-1

Records of Marine Mammals in Toyama Bay, Sea of Japan, 2021

Hisao Nambu¹⁾, Kaito Shimizu²⁾,
Masaki Nishio^{3), 4)}, Yuko Tajima⁵⁾
and Tadasu K. Yamada⁵⁾

- 1) Toyama Science Museum volunteer, 1-8-31 Nishinakano-machi, Toyama 939-8084, Japan
- 2) Toyama Science Museum, 1-8-31 Nishinakano-machi, Toyama 939-8084, Japan
- 3) Board of Education of Himi City, 1060 Kurakawa, Himi-shi, Toyama 935-8686, Japan
- 4) Himi-lab Aquarium, 1927 Soryo, Himi-shi, Toyama 935-0113, Japan
- 5) National Museum of Nature and Science, Department of Zoology, 4-1-1 Amakubo, Tsukuba-shi, Ibaraki 305-0005, Japan

1. はじめに

富山湾 (主に富山県側) の海棲哺乳類 (鯨類及び鰭脚類) については筆者らにより, 1999年から漂着調査等が継続的に行なわれている (南部, 2009; 南部・山田, 2006; 南部ら, 2000, 2002, 2003, 2004, 2005, 2007, 2008, 2010, 2011, 2012, 2013, 2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020, 2021; 関ら, 2005). 本稿では2021年に富山湾で確認された海棲哺乳類について報告する。

2. 方法

海棲哺乳類の漂着については, 情報を得しだい可能な限り現地調査を行い, 体長の計測, 体表から観察できる

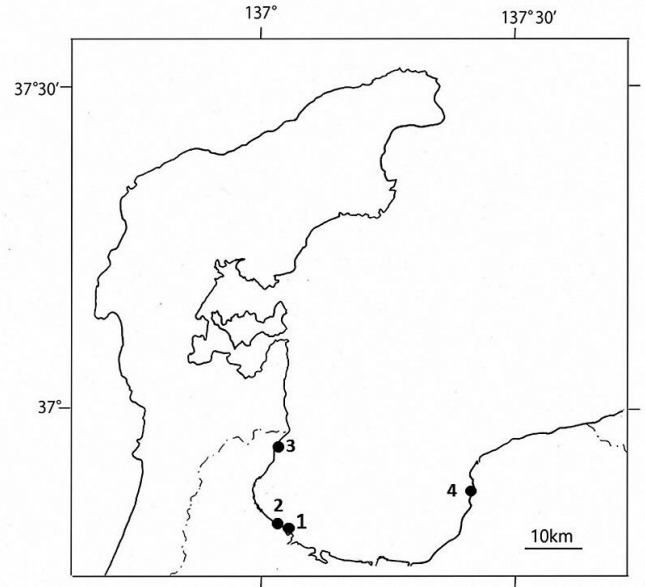


図1 2021年の富山湾における海棲哺乳類の確認地点。
1, 高岡市伏木国分沖; 2, 高岡市太田松太枝浜;
3, 氷見市中田; 4, 黒部市立野。

損傷状況の確認, 写真撮影等を行った。関係者からも情報収集を行った。

3. 結果

2021年に富山湾で確認した海棲哺乳類は, 鰭脚類ではアシカ科のトド *Eumetopias jubatus*, 鯨類ではマイルカ科のカマイルカ *Lagenorhynchus obliquidens* とハナゴンドウ *Grampus griseus*, マイルカ科の一種の4件4個体であり, 下記に概要を記す。

トド *Eumetopias jubatus*

【発見日】2021年10月2日。柳久夫氏発見。

【発見場所】高岡市伏木国分沖の男岩周辺の岩 (図1-1, 図2)。海岸より約320 m沖合。

【発見状況】柳久夫氏が釣り中に岩の上にいるトド1個体を発見。同氏によれば少なくとも, 午前8時50分～午前10時頃まで岩の上において, 首しか動かしていなかった。撮影された写真 (図2) によれば, 鼻づらは比較的短く, 背側の体色は薄い茶色で, 体毛は短い。

カマイルカ *Lagenorhynchus obliquidens*

【発見日】2021年5月15日, 12時頃, 松太枝浜の利用客が発見し, 警察に通報。

【発見場所】高岡市太田松太枝浜海水浴場波打ち際 (図1-2, 図3)

【現地調査】2021年5月15日午後16時頃, 清水現地調査。

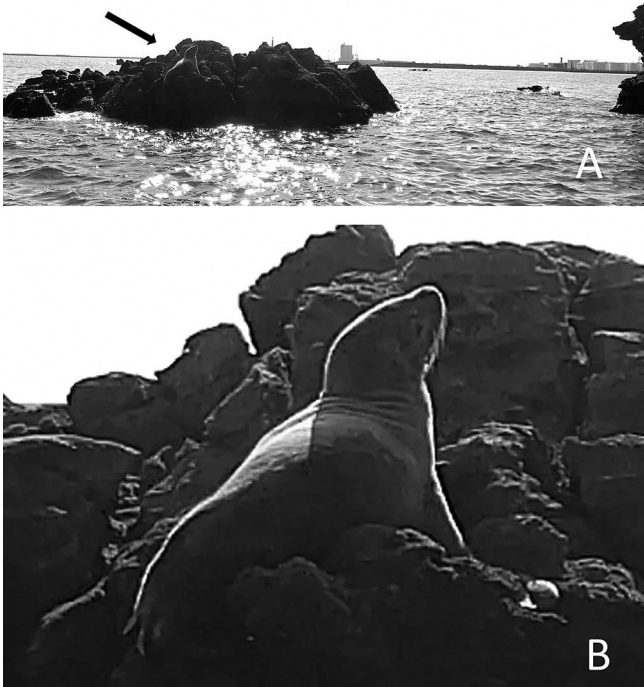


図2 トド。高岡市伏木国分沖男岩周辺。A, トドがいる岩(矢印)。B, 岩の上のトド。2021年10月2日。柳久夫氏撮影・提供

【発見状況】全長約172 cmのメス。波打ち際に横たわる。体の右側では、頭部の一部の皮膚は剥がれるが、他の部分は残り黒色を呈していた。

【備考】富山県高岡土木センターから情報を得た。



図3 カマイルカ。高岡市太田松太枝浜。2020年5月15日。

ハナゴンドウ *Grampus griseus*

【発見日】2021年4月9日。市民が発見し、氷見市環境防犯課に連絡があった。

【発見場所】氷見市中田の海岸(砂浜)。

波打ち際近くに横たわる(図1-3, 図4)。

【現地調査】2021年4月10日、南部と西尾で、漂着場所の確認と処理施設で個体を観察。

【発見状況】体長約221 cmのオス(処理施設で4分割されていたものをそれぞれ計測し合計した)。表皮は剥げ、左右の胸鰭は骨が露出していた。

【備考】氷見市環境防犯課から情報を得た。



図4 ハナゴンドウ。氷見市中田。2021年4月9日。氷見市環境防犯課提供。

マイルカ科の一種

【発見日】2021年6月5日18時40分頃、横田恵一郎氏発見。富山市科学博物館へ連絡がある。

【発見場所】黒部市立野の海岸(コンクリートブロック設置)。コンクリートブロックの上に横たわる(図1-4, 図5)。

【発見状況】左胸鰭欠損。尾は欠損し、尾椎とび出る。内臓は露出し、肋骨剥き出しになる。

4. 考察

2021年に富山湾で種が同定された海棲哺乳類は鰭脚類のトド、鯨類のカマイルカ、ハナゴンドウであり、いずれも富山湾既知種であった。

トドの富山湾(富山県側)の記録は、今回の発見場所と近い高岡市雨晴沖で2014年に体長約1.5 mと推定される1個体が目撃されている(南部ら, 2015)。少なくとも10月19日~11月28日の41日間定置網周辺で留まり、定置網のブイの上で休息している個体が観察されている。古い記録では1982年4月16日にトドの可能性のある1個体が朝日町宮崎漁港周辺に出現している(富山新聞, 1982。

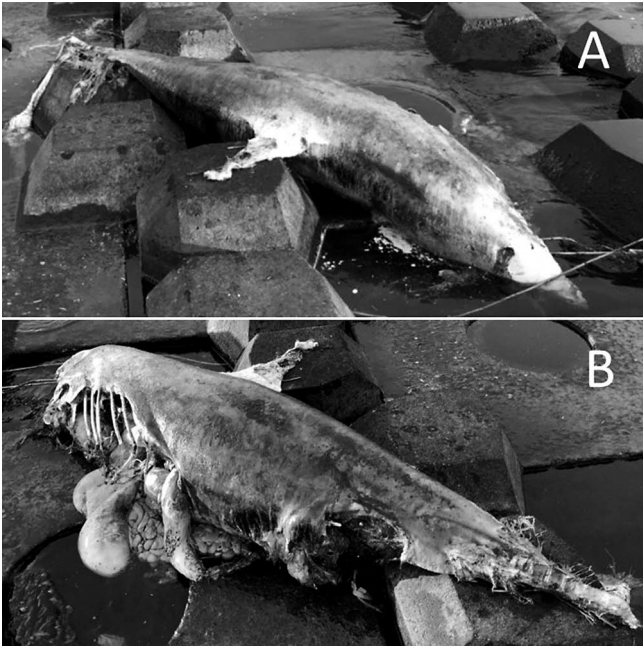


図5. マイルカ科の一種。黒部市立野。A, 背側； B, 胴左。2021年6月5日。横田恵一朗氏撮影・提供

4. 16). 朝日町の個体は海から灯台突堤に上がった写真が掲載され、目撃者談として3 m近くあったという。氷見市に隣接する石川県七尾市江泊では1985年2月26日に生存個体が1個体確認されている(国立科学博物館, 2022)。

トドは日本列島では11~6月に北海道日本海側と根室海峡を中心に来遊が見られ、千島列島とオホーツク海沿岸の繁殖場から来遊すると推察されている(磯野・服部, 2021)。青森県以南の日本海側の記録(目撃又は死体の漂着)は、2~8月に青森県(3件)、秋田県(3件)、新潟県(4件)、石川県(1件)、富山県(1件; 南部ら, 2015と同じ記録)、福岡県(1件)、長崎県(1件)がある(1件は1個体を示す; 国立科学博物館, 2022)。また島根県でも1個体確認されている(河野, 2013)。今回確認されたトドは、北海道に來遊した個体が日本海を南下したものと考えられる。

カマイルカは富山湾で最もよく漂着するイルカで、主に富山湾の西側(氷見市, 高岡市)に漂着するが(南部ら, 2021)、今回の漂着も高岡市の海岸であった。漂着月は5月が最も多く、今回も同じ月であった。

ハナゴンドウは富山湾(富山県側)ではカマイルカに次いで漂着が多く、過去には、氷見市(3件3個体)、射水市(1件1個体)、魚津市(1件1個体)、黒部市(1件1個体)の計6件6個体の記録があり(南部ら, 2005, 2007, 2008, 2012, 2016, 2018; 田島ら, 2012)、今回の氷見市の漂着を合わせると計7件7個体である。市町村別では、氷見市での漂着が4件4個体と多い。漂着月の内訳は3月1件、6月5件、7月1件である。氷見市と

隣接した七尾市観音崎南東約7.5 km(富山湾)では2009年11月22日に、100頭ほどのハナゴンドウの群れが第九管区海上保安部のヘリコプターで目撃されている(石川ら, 2013)。能登半島東側の石川県志賀町富来漁港では2020年6月19日に7個体のハナゴンドウが出現している(中日新聞, 2019.6.19)。富山湾でのハナゴンドウの漂着や来遊例数の記録は少なく実態が不明であり、継続的な調査が必要である。

5. 謝辞

富山県高岡土木センター、氷見市環境防犯課、横田恵一朗氏、柳久夫氏には貴重な情報及び写真を提供頂いた。皆様に心よりお礼申し上げます。

6. 引用文献

- 中日新聞, 2020.6.19. ×イルカ ○ハナゴンドウ? 富来で確認の7頭. <https://www.chunichi.co.jp/article/75309>. 2022年1月17日閲覧。
- 石川 創・後藤睦夫・茂越敏, 2013. 日本沿岸のストランディングレコード(1901~2012). 下関鯨類研究室報告, (1):1-314.
- 磯野岳臣・服部 薫, 2021. 令和2年度 国際漁業資源の現況 59 トド 北太平洋沿岸・オホーツク海・ベーリング海トド. 水産庁 水産研究・教育機構. http://kokushi.fra.go.jp/R02/R02_59_SSL.pdf. 2022年1月14日閲覧。
- 河野重範・服部 薫・櫻井 剛・大塚健斗, 2013. 日本海南部の島根県島根半島で2007年夏に確認されたトド. 島根県立三瓶自然館研究報告. 11:1-38.
- 国立科学博物館, 2022. 海棲哺乳類ストランディングデータベース. <https://www.kahaku.go.jp/research/db/zoology/marmam/drift/index.php>. 2022年1月14日閲覧。
- 南部久男, 2009. 富山湾における鯨類の記録(2008). 富山市科学博物館研究報告, (32): 115-116.
- 南部久男・稲村 修・田島木綿子・倉持利明・山田 格, 2002. 富山湾における鯨類(Cetaceans)の記録(2001年). 富山市科学文化センター研究報告, (25): 129-132.
- 南部久男・石川 創・山田 格・台藏正一・大田希生, 2007. 富山湾における鯨類の記録(2006年). 富山市科学文化センター研究報告, (30): 63-68.
- 南部久男・石川 創・山田 格・田島木綿子・谷田部明子・台藏正一・大田希生, 2008. 富山湾における鯨類の記録(2007年). 富山市科学文化センター研究報告, (31): 99-102.

- 南部久男・真柄真実・栗原 望・山田 格・関 東雄・台藏正一・石川雄士, 2010. 富山湾における鯨類の記録 (2009年). 富山市科学博物館研究報告, (33): 105-108.
- 南部久男・西尾正輝・川上僚介・田島木綿子・山田 格, 2021. 富山湾における海棲哺乳類の記録 (2020年). 富山市科学文化センター研究報告, (45): 69-71.
- 南部久男・西尾正輝・田島木綿子・山田 格, 2020. 富山湾における海棲哺乳類の記録 (2019年). 富山市科学博物館研究報告, (44): 53-57.
- 南部久男・西岡 満・関谷伸一・山田 格・太田希生, 2004. 富山湾における鯨類の記録 (2003年). 富山市科学文化センター研究報告, (27): 75-78.
- 南部久男・西岡 満・田中 豊・太田希生, 2003. 富山湾における鯨類・ウミガメ類の記録 (2002年). 富山市科学文化センター研究報告, (26): 145-147.
- 南部久男・関 東雄・真柄真実・山田 格・太田希生・藤田将人, 2011. 富山湾における海棲哺乳類の記録 (2010年). 富山市科学博物館研究報告, (34): 141-144.
- 南部久男・関 東雄・田島木綿子・山田 格, 2016. 富山湾における鯨類の記録 (2015年). 富山市科学博物館研究報告, (40): 99-101.
- 南部久男・関 東雄・山田 格, 2015. 富山湾における海棲哺乳類の記録 (2014年). 富山市科学博物館研究報告, (39): 55-60.
- 南部久男・田島木綿子・新井上巳・山田 格・田中 豊・大田希生, 2005. 富山湾における鯨類の記録 (2004年). 富山市科学文化センター研究報告, (28): 91-94.
- 南部久男・田島木綿子・荻野みちる・倉持利明・山田 格・田中 豊, 2000. 富山湾氷見市の海岸に漂着したオットセイについて. 富山市科学文化センター研究報告(23): 169-171.
- 南部久男・田島木綿子・山田 格, 2012. 富山湾における鯨類の記録 (2011年). 富山市科学博物館研究報告, (35): 103-105.
- 南部久男・田島木綿子・山田 格, 2013. 富山湾における鯨類の記録 (2012年). 富山市科学博物館研究報告, (37): 109-110.
- 南部久男・田島木綿子・山田 格, 2017. 富山湾における鯨類の記録 (2016年). 富山市科学博物館研究報告, (41): 67-70.
- 南部久男・田島木綿子・山田 格, 2018. 富山湾における鯨類の記録 (2017年). 富山市科学博物館研究報告, (42): 65-67.
- 南部久男・田島木綿子・山田 格, 2019. 富山湾における鯨類の記録 (2018年). 富山市科学博物館研究報告, (43): 71-76.
- 南部久男・山田 格, 2006. 富山湾における鯨類の記録 (2005年). 富山市科学文化センター研究報告, (29): 113-114.
- 関 東雄・南部久男・山田 格・石川 創, 2005. 富山湾の海上における鯨類の目撃記録. 富山市科学文化センター研究報告, (28): 113-122.
- 田島木綿子・山田 格・南部久男, 2012. 富山県魚津市に漂着したハナゴンドウ *Grampus griseus*. 富山市科学博物館研究報告, (35):107-108.
- 富山新聞, 1982. 4. 16. 北海のギャング富山湾侵入 宮崎港 「トド」なら・・・200年ぶり.